

教育部長挨拶	
教育部長	基本計画の説明の前に、富士宮市の考える郷土史博物館についてお話をさせていただく。 ここ数年、労働賃金の上昇と併せて物価高騰が続いている。また現在、中東情勢の混迷が市民生活にも影響し、品不足になっている製品もある。 そのような中で、 ・富士宮市では多額の税金を使って博物館を作るのか。 ・そこに展示するような立派なものはあるのか。 ・市民は一度行ったらもう行かないのでは。 ・これから人口が減っていく中で使われない公共施設が出てくるのに、新しい建物を作るのか。 こんな思いをお持ちの人もいるのではないか。 市議会でも議員から、市民の皆様からそのような声が出ているというお話がある。 そこで、郷土史博物館の必要性について私の方から少し説明させてほしい。 ①博物館が必要かどうか →教育委員会としては必要と考えている。国に文化庁という行政機関がある中で、市の行政における文化行政としての必要がある。後ほど担当から説明する。 ②新たに建てる必要性は無いのではないかと。多大な費用を要する。空いている公共施設を活用してはどうか。 →新たに建てようとしている施設は、必要最小限の規模で考えている。 文化資料の中で、特別な管理環境が不必要なものについては、今ある施設で保存収集していく。 博物館は一度行ったらもう行かないという声があるのも承知している。 富士宮市の博物館は、多くの魅力的な展示があり来場者が多い首都圏の博物館、例えば東京国立博物館のようなものではなく、展示だけでなく市民の皆様やお子さんが富士宮市の歴史文化を学ぶ場、イメージとしては図書館や公民館のような教育的施設を考えている。例えば市民向けの講座や小学校の社会科見学の間といった利用も考えている。 私事だが、先日、藤枝市の郷土博物館に行ってきた。そこで親子連れの方に、自分が以前この博物館で学び、子にも郷土の歴史を学んでもらいたいのと連れてきた、という話を聞いた。 富士宮市には博物館が無いと、私は子供の頃にそういったことを学ばなかったし、自分が子育てをしている時もそういう所で学ばせることが出来なかった。もしそういった施設があればもう少し郷土について学べたのではと改めて感じた。富士宮市には、富士山学習という素晴らしいものがある。富士山学習と併せて、博物館で郷土の歴史を学ぶ事で、さらなる郷土愛が育まれるのではないかと感じた。 現在富士宮市を離れて就職してしまう子どもが多くいる。将来富士宮市の博物館で学んだ子供たちがUターンして富士宮市に就職したいと思えるような郷土愛が育まれる拠点として、博物館が必要だと感じた。 ③この物価高の中で、更には市の仕事として、少子高齢化に向けた対策や医療等、博物館よりも優先すべき仕事があるのではないかと。 →まず博物館を建設するためには、設計して建設へ進むというふうに段階を踏んでいく。 建設時期においては物価・資材・調達など工事の予算に経済状況が影響する場面もある。 建設予算については、状況を見ながら、予算の時期や見積もりを検証し、予算作りをしていく。この建設予算は、子育てや医療、生活環境など、市の生活関連事業予算に影響を与えないように作られていく。 この予算の財源について、現段階でお話できることが二つある。 一点目はふるさと納税、寄付金。富士宮市にも多く寄せられていて、寄付の一部を、寄付者の意向等を汲みながらふるさと応援基金に積み立てており、この郷土史博物館のために一定額確保している。 二点目は国の交付金制度を最大限活用したいと考えている。

教育部長	まとめると、 ・富士宮市は郷土史博物館が必要である。 ・博物館の建設にあたっては、その必要性等、既存施設の活用を検証して必要規模の施設とする。 ・博物館は市民の皆さんが何度でも足を運ぶ施設なので、展示施設だけではなく、生涯学習、郷土史を学ぶ施設とさせていただく。 ・建設にあたっては、その時の経済情勢を見ながら予算を検討し、その財源は多くの皆様のご寄付の活用、更には国の交付金を最大限活用して、市民の皆様からいただいた貴重な税金は極力抑えるような形で考えている。 教育委員会としては富士宮市の歴史文化を後世に継承する責務がある。そして市民の皆様の学習の場、更にはこれから富士宮市に生まれてくる子どもたちの未来のために博物館が必要である。ぜひそれを踏まえて、これから説明する基本計画の内容を聞いていただけるとありがたい。
質疑応答	
市民	上位計画は富士宮市第6次総合計画ではなく文化庁の博物館法ではないか。
教育部長	富士宮市においては、市の最上位計画が総合計画なので、この博物館基本計画の上位計画は総合計画。
市民	それはおかしい。上位計画は国の博物館法。博物館法は令和4年2月に大改正され、令和5年の4月に法律が制定されている。 それによると、現在富士宮市で考えているような従来の博物館法には一切補助金は出ない。資料をすべてデジタルアーカイブにして、文化庁が設定したクラウドのジャパンサイトに、世界遺産については文化遺産オンラインにすべて集積することが決められている。期日は令和10年度末で、全国の51パーセントの自治体はすでにこれを実施している。何もやっていないのは富士宮だけ。富士市はすでに静岡県ふじのくにというサイトで、国のジャパンサイトに紐づけされている。 基本計画に書かれている説明は国の博物館法とは異なるもので、補助金が出るなんてとんでもない。教育部長はこれを知っていたのか。官報で富士宮市にも来ている話。
教育部長	補助金については認識不足ではあるが、富士宮市では今、立地適正化計画を検討していて、そこに位置付けられる新たな交付金制度を活用できる。
市民	先ほど言ったように、令和4年2月と令和5年4月の官報で富士宮市にも通知が来ているはず。文化庁ではこの説明会をすでに20回やっていて、全国の自治体から参加している。Youtubeにも載っている。
文化課長	文化庁の補助金はないが、市で予定している交付金の一つとして、総務省の地域未来交付金がある。文化庁の補助金は、デジタル技術を活用し文化財について今おっしゃられたものをクリアすることが必要であるかもしれないが、今回の基本計画の中で、市でもデジタルアーカイブ化を進めると記載している。デジタルアーカイブ化というのは色々な段階があり、今市では内部資料としてそういったものを持っているが、まだ一般に公開できるような物にはなっていないため、公開できるようにしていく。
市民	国から令和10年度期末までに設定するよう義務づけられている。 新設した博物館については令和8年3月で新規の設立は申し込みを締め切っている。 この新しい博物館法では収益性が求められている。入場料金で運営費用の65パーセント以上を達成していない場合には廃止、廃館になる。 登録博物館法というのがあり、現在ある博物館は登録の博物館という形で認定されているが、令和10年度までのデータで、収益性が65パーセント未満のものについては統廃合の対象になる。新規の博物館は今年の3月ですでに締め切りを終了している。というのは実績が2年間ないと博物館として認められないということ。 今までの博物館の説明会に市民が集まってくれているが無駄。補助金なんて出るわけない。国は生涯学習の場にIoTのデジタルアーカイブを推奨している。

市民	補助金は、1件最大で2000万円しか出ない。何億円も出るわけがない。国からの交付金は地方交付金で一般財源だから、何十億円なんて出ない。 静岡県立図書館は100億円を予想していたが、この博物館法の改正で計画が駄目になった。 また国立科学博物館が10億円の収蔵庫を国に要請したら却下され、クラウドファンディングで10億円を集めて収蔵庫をつくった。しかしエアコンの電気代が1年間で4億円かかり、適切な温度で管理しなければいけないところを、電気代節約のために2度温度を上げて24度で保管している状態だ。国立博物館がこんな状態なのに、一地方の富士宮市が今からつくる博物館に何十億円も補助金が出るはずがない。
文化課長	博物館は自分達でお金を稼いでいくようにならないと再編の対象になっていくという新聞記事を確認しているが、それは国立や独立行政法人の博物館に対してである。 富士宮市は博物館法26条にある公立博物館、登録博物館を考えているが、26条では、公立博物館は入館料その他、博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない、ただし博物館の維持運営のためにやむを得ぬ事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。とある。 基本的には入館料を取らない方針だが、先ほど説明したように、特別展など他から資料を借りてくる場合は、通常運営よりプラスの費用がかかることが考えられるため、費用徴収を考えている。 交付金は、先ほど総務省のデジタル技術を使える交付金というお話があったが、市としては、この博物館だけにではないが、10億円程度の上限のものがあるため、その一部を使えると思っている。補助率は1/2。また、都市機能の誘導区画で立地適正化計画というものを策定する中で、それに該当する施設にも補助率1/2で交付金が出る。
市民	それは全部旧法。文化庁の博物館改正法にどなたか参加されたか？Youtubeに全部データが出ている。博物館法はユネスコの国際共通規格だ。ユネスコが上位指令で、世界各国に通達している内容だ。富士宮市での問題ではない。10億円なんて出るわけがない。
文化課長	文化庁では博物館のデジタル化を進めているので、そういった補助金や支援のメニューを用意しているが、その博物館の状況に応じて色々なデジタルの段階があり、アーカイブとして目録だけを公開する、映像として公開する、中にはデジタルミュージアムといった公開の仕方もあるが、そこは段階を各館によって決めていくことになるので、そこまで義務付けはされていないと認識している。 デジタルについては今基本計画の中で進めると記載しているので、それを具体的にしていこうということはまた個別に考えていく。 再度確認し、使えるものはしっかり使って、デジタル化を進めていきたい。
市民	まず今回の資料がペーパーで60枚くらいあるが、民間ではこんなことはあり得ない。民間ではペーパーレスで、パワーポイントでやる。こんな文字だらけの文章を見ても分かるわけがない。これで理解した市民の方はいるか。
文化課長	今回パブリックコメントと並行してやっているということもあり、限られた時間なので、計画そのものをしっかり見ていただきたいということで、原本をお渡しした。
市民	文化庁はすでに、国民に対して年代別でアンケートを取っている。これによると70代以上でインターネットで生涯学習をしたいと思っている人は19%。それに対して60歳以下の割合は80%を超える。 国民の統計はすでに取れていて、年代によっては博物館を必要としないという人が大幅に増えている。私は70歳以下でパソコンやスマホを使っている。上位計画である国の博物館法よりも富士宮市の総合計画の方が上なのか。そんなことはありえない。
文化課長	もちろん法律はその上にあるが、今回は市の中の計画として記載させていただいている。
市民	一番欲しいのはヒト、モノ、カネ。お金の出どころがどこかということが一番心配している。国立科学博物館でさえクラウドファンディングで資金を集める時代。この建設費を市長の個人献金で30億円出すなら市民は賛成と思う。
教育部長	さきほど私の挨拶でも触れさせていただいたが、ふるさと納税の中で応援基金ということで積み立てをしている。

市民	クラウドファンディングを募集すればいい。ふるさと納税は、観光や教育目的でしたのではないか。ちなみに富士吉田市はふるさと納税資金が120億円。子育て資金としてやっているから、富士吉田市は毎年0.8%ずつ人口が増えている。河口湖町に至っては経常収支比率70%台で、これも子育てで人口が3%増えている。富士宮市は逆にマイナス0.8%減少している。こんなことに使っていると人口がどんどん減っていくに決まっている。
文化課長	市としては企業版ふるさと納税というものをやっていて、企業に博物館に関して寄付をお願いしている。令和7年度には合計700万円の寄付があったため、今後も企業等に色々お願いをしていきたいと考えている。
市民	その700万円で作るならここにいる市民の方は皆賛成する。光熱費だけで何億円という時代。例えば、市役所の光熱費は年間いくらかかっているのか。
文化課長	そちらの数字は今持っていない。
市民	建設すれば良いという問題ではなく、学芸員の給料だけで1億円、光熱費で更に数億円要る。それをこれから何十年間と富士宮市民が負担していく。
文化課長	建物自体の維持管理にかかるランニングコストは、設計してみないと詳しい金額は出てこない。
市民	先ほど1平米あたりいくらか出ていたが、C A Dでやれば積分で簡単に出る。問題は床面積あたりの重量。何を展示するのか。軽いものなのか。一平米あたり人間一人75キロで計算する。問題は耐震率。予想される東南海地震は震度7で、これに耐える安全率は4くらい。先ほど1平米いくらかという値段を出しているが、安全率いくつで計算しているのか。
文化課長	1平米あたりの金額については、すでに建築した博物館を参考にして算出した金額なのでご理解願いたい。どれくらいの光熱費・ランニングコストがかかるかについては、例えば富士市のかぐや姫ミュージアムでは、ざっくりした決算額を館報で公表しており、光熱費だけではないが管理運営費は年間3,500万円ほどかかっている。富士市の博物館は2,000㎡を切るのも、それ以外に民俗資料館や広見公園内に隣接した古い建物も全て含めてその金額になっている。それにプラスして人件費ということになる。富士市では、人件費と実際の事業費を合わせると約1億円、ということが確認できる。学芸員の人件費について、富士宮には今すでに6名の学芸員がおり、費用はすでに出ているので、人件費は1億円がプラスになるわけではなく、今より少しプラスになることで収まると考えている。
市民	富士宮市の直近の経常収支比率は93.8パーセント。まもなく発表されるが、2025年度の経常収支比率はこれより大幅に向上しているはず。なぜかという文化会館の改修工事費と市営球場の工事費がわざと計画をずらしているから。これが発表されるのは来年の市長選挙の後の6月。まもなく発表される経常収支比率はおそらく90パーセント前後。それを見れば皆さんは余裕があると思って建設にG Oを出すと思う。
文化課長	わざとずらしているとおっしゃったが、事情があり7年度にできなかったのも、わざとではない。
市民	①この計画に関する動き、きららの説明会等が、富士宮市H Pのトップページには全くのっていなかった。市民にいきなり決まったように見えてしまった理由は、もしかするとそのようなことが原因かもしれない。今後博物館関連の動きが、あまりたくさんリンクを踏まなくても簡単に反映されていくように発信していただければありがたい。 ②場所に関する説明会を実施した際、きらら周辺住民や定期的にきららを利用している人など、利害関係者に狭く設定されていたように思った。市民全体へ寄与する博物館を目指しているのも、その説明会の範囲を、市民全体へと広くとっていただければもう少し良かったのかなという点が少し残念。 ③計画資料について、ネットワーク構築のところで、博物館をとおして市が、教育だけではなく福祉や高齢者の心理療法や産業など、広くまちに博物館が寄与できるビジョンを示されており、これがとても良いと思うが、一方で、全体をとおして文化課の方たちからの説明だからだと思うが、博物館の効果としての言及が、歴史文化に関する面が大半だという印象なので、これがこの計画がすべての市民に寄与するとは思われにくい理由なのかなと感じている。

市民	博物館が誰にでも関与できる施設であるという例を挙げると、情報や知識との距離感のつかみ方というのを育める場所でもあり、今のように情報が非常に多い社会を生きていく上で、学生だけではなく、すべての人において情報との距離感というのが心の健康を守るためにも重要なスキルとなってくるし、人と人とが関わっていく上でも役立つので、博物館は医療や健康、対人関係の場にも繋がっていくという点で、誰でも博物館の関係者になれると私は考える。富士宮市の今回出されている計画資料からは、まだそういった裾野の広さを全体からは感じにくいように思える。 このほかにも個人と地域、世界全体とが、博物館をとおしてつながり、世界全体の課題も取り組める点や、広く世界全体の持続や発展を守るために貢献できるものなので、こういった踏み込んだ必要性や重要性があるというのが市の資料では伝わりにくい。 それで博物館というのが何に貢献できるかというのが、国も、もっと上位の機関も市も表現していければ良いと思う。 現状では市の宝を守るよりも優先して欲しいことのある方だったり、保存は必要だが展示をしなくてもいいという声に対して、市はそういった方へも重要性を伝えていきたいからこそ博物館をつくりたいと返すことになる。すると反対意見として、それを優先する必要性がわからないと返ってきてしまい、堂々巡りとなっていると思う。 歴史や文化が大切だからというだけではなく、何のために守り、その先に何があって、どんなふうな社会的役割を果たしたいのかという、社会や世界、個人に対して博物館が果たせる責務というもののアンサーが、本計画でも提示されていけば、単に歴史文化を守るためだけではなく、それを媒体して、もっと広い意味で地域や人の豊かさに寄与していきたい、社会に結びついていきたいという意図がこの資料の中でも感じ取れるが、それが資料全体からも感じにくい。 博物館による人づくりということが挙げられているが、まちを知る行為そのものではなく、それをとおして考える行動が生じることが社会に対する人づくりだと思うので、個人や地域が博物館を通じて感じたり考えたりしたことを、日常生活や社会というフィールドでどう実施していくかというところにつなげていくビジョンが具体的に誰にでも掴みやすくなれば、博物館に詳しくない、なじみがない方でもわかりやすくなるかなと思う。 本計画でも、博物館の持つ可能性の広さをまず伝えていくことが、博物館が万人に直接関係していく要素があるというものだという点を掴みやすくすることだと思うので、博物館を用いて、未来と今のために成したい役割が歴史文化だけではなくて、もっと具体的で多様なんだということを明確に伝えていくことが、理解を得ていく上で重要だと感じる。 また、この博物館が学校教育や地域の子供会、寄合所の世代交流にも活用していただけるようにするためには、市が民間と協力して貸し切りバスの手配を助けたり、子どもや高齢者等の利用しやすい乗合タクシーを、子どもさんは無料等にしてバスでのアクセスが悪い地域からでも足を運びやすくなるようにすると、格差が減り、より広く市民が活動しやすくなるため、市民生活への寄与も感じやすくなるのかなと思う。 もちろん車でアクセスしやすいように、博物館と、今優待されているきららと、双方の利用者が駐車場に困らないことだったり、子どもたちが付き添いの人に連れてきてもらいやすいように、付き添いでくる大人がそんなに興味がなくても、感覚的に楽しいなと感じられる施設だと、連れてきてもらうという移動手段の助けとなるので、自分で移動できない就学児の方だったり、バスの便が悪い土地からでも連れてきてもらいやすいのは利用機会の創出になる。今も駐車場の確保について交渉されていると思うが、駐車場の対策と、市民が利用するにあたって、気持ちにおける敷居の広さ、心のバリアフリーとも表現される分野だが、ライトにもディープにも楽しめるような、自由度の高い施設になるように期待している。
文化課長	広い視点でのご意見をありがとうございました。 今色々おっしゃっていただいたが、メールでもかまわないので、パブリックコメントとして提出していただけるとまた検討していくので、よろしくお願いします。

市民	きららの駐車場で決定したということにびっくりした。まさかここに決まると思っていなかった。色々なお話を聞いていると、後付けで市が必死になって市民を納得させようと基本計画を出して話をしているとしか思えない。 議会が真半分に分かれた案件。市民も同じ。建物が30億円でできるわけがない。40、50億円かかる。先ほども話が出てきたが、クラウドファンディングや、10年20年計画で、1年に2億円ずつ積み立て等をやって、20年後30年後に建てるというなら市民は何も言わない。 今皆生活が苦しいと言っている中で、30億円も50億円も使う…これは誰が発想したのか。35年前の平成3年に建てようという会を作ったのを、慌ててここ3、4年で建てるのは騒いでも仕方がないのではないか。 あと一つ気になるのは、きららを使うということ。僕は15年前きららを買うときに反対した。5億円の予算で買えるものを、11億円の予算で買った。今度は駐車場を潰して、博物館を建てるとうとうことか。無駄なお金を使ってはいけない。 市民の八割九割が賛成したらいいが、まだ半分も賛成していない。では来年の統一地方選挙、市長選挙、市議会議員選挙はどうなるのか。もっと極端に言って、22人のうち15人反対議員が出たらこの計画は潰れるのか。 市民皆が納得できる方法があるはずだ。もっと対話を重ね、8割9割の人が賛成するようなものをつくれば良いのではないか。 また、きららの裏につくることは大反対。マンションの裏に細々と2、3階建ての博物館をつくるのか。恥ずかしくないのか。富士宮は世界文化遺産があるから、歴史館と言わずに、富士宮の文化は世界の文化という気持ちで、見直す必要があるのではないか。 ここに市長や賛成した市議会議員が並んでそれなりの意見を出すなら分かる。 説明会の定員が100人というから今日来た。出張所の説明会にも行きたい。今、まちなかでこの歴史館を作ることに賛成と言っている人は何人いるのか。 30億40億のお金を使うこのような単独の事業は重大ごとだ。見直して欲しい。
文化課長	まだ今建てなくても良いのではないかという話だが、35年前、平成3年くらいまで博物館について市民も一緒になって色々議論してきた。結局富士宮としては、そういった拠点がつくれずに現在に至っている。 これから人口が減っていく中で、富士宮の歴史文化を知っている人がどんどん少なくなるのではないか。今いる子どもたちにも、早くそういったものを伝えないといけない。10年後に建ったら、今の小中学生は社会に出て、富士宮を出て行ってしまっている子どもたちもいると思う。 富士宮の歴史文化をしっかりと学ぶ場がなく大人になっていく人たちがどんどん増えていき、子どもの人数が減っていき、将来的に富士宮がどのようなまちで、どのような歴史があるかということが伝わっていかないのではないか、そういうところが少子高齢化、人口減少で危惧される。 そういった面から、文化課としてはしっかりと拠点を作って、市民の皆さんに伝えていきたい。
市民	それが今必要か。
文化課長	必要というところで今進んでいる。
市民	必要ではない市民が半分いる。
文化課長	必要ではないと思ってしまっている状況が市として大丈夫なのかと思う。
市民	10年20年、時間をかけてやるべき。
文化課長	ゆっくりやる中で、そういったところを伝えていける人がどんどん減ってしまっている、守っていかなくてはならないものが守れず無くなってしまうことが危惧される。
市民	だからそれが博物館法の改正ではないのか。日本中の自治体がみんなそうだ。
市民	なぜそんなことにこだわるのか。
文化課長	富士宮の歴史文化というものをしっかりと守っていくことが大切なことだということは、皆さん分かっていることだと思う。
市民	半数が必要ないと言っている。
文化課長	歴史文化を半数が必要ないと考えているのか。
市民	たぶん。

市民	デジタル化にするというのはそういう理由。
文化課長	文化庁の博物館のサイトでもデジタル化を進めている。しかしそれは実物が要らないということではなく、実物は実物で保存・展示もするが、多くの人に知ってもらうために、そして将来的にもし実物がなくなってしまった時のことも考えてデジタル化していくことを進めているので、決して今までの博物館の活動を否定するものではない。
教育部長	先ほど見直しをと話があったが、17ページにもあるが、令和3年度に基本構想の策定でそこから見直しをして規模を縮小し、富士宮市にとって必要な規模で今回作成させていただいた。 これは令和7年度予算を議会で議決をいただいて進めるているもの。まずは富士宮市に合った博物館の基本計画を策定させていただいて、建設にあたっては、また今後経済情勢等を見ながら行う。この基本計画イコール建設というわけではない。
市民	土地が決まったというのでびっくりした。どういうものを作るかが先ではないのか。どんなものが建つかもいくらになるかも分からなくて、土地が決まりましたと言われても、何が建つんだと思う。だからまだ市民の説得ができていない。
教育部長	105ページを見ていただくと分かるが、策定委員会の中で郊外型にするのか都市型にするのかということで話し合った。
市民	策定委員会は全員が賛成のメンバーだろう。反対のメンバーがいるか。
教育部長	やはり場所が決まらないと、基本設計等に進んでいかない。
市民	きららの裏のマンションの200坪300坪の土地ではなく、市が持っている土地がほかにもあるだろう。今度、栗倉にストックヤード2,000㎡、700坪800坪くらいのもので、そこにつくってはどうか。栗倉は富士山があり素晴らしいまちだ。栗倉の分校が廃校になるので、そこを利用してはどうか。駐車場も困らない。ほかにやり方はいくらでもある。きららの裏そのものが寂しいし、50億円もかけてつくるような場所じゃない。
教育部長	そのあたりもこちらで検討した中で、都市型となった。栗倉分校のある場所は土砂災害計画区域で、そこに建設するというのは…
市民	そんなこと言ったら富士山が爆発したら、富士宮は4時間で全部溶岩で埋まる。もっと市民の声を聞いたらいいんじゃないか。賛成している議員を全員連れてきなさい。
文化課長	今回の資料の101ページのところで、既存施設の活用ということで、どう活用していくかということは記載させていただいた。説明の中でも先ほど言ったが、現在空いている施設で、博物館の本体をつくれそうな施設がない。 102ページでは、そういった施設が出てくることが考えられるということで、活用方法について記載している。ただ博物館本館としては活用しない方針。埋蔵文化財センターが浸水想定区域で、文化財の移転が急務であること、今後そういった空いた施設がこの博物館の人づくりの拠点として良い場所かどうかということは分からない。なかなか人が行きにくい場所であったりすると、そこは人づくりの拠点としてはふさわしくないと考えられる。 あと、未利用の既存施設の利用を待てないという理由で、これは先ほどからも説明しているが、各家にある文化財等がなくなったり散逸したりしないようにということや、できるだけ多くの子どもたちに早くに歴史文化を知ってもらいたいこと、そういったところから、これから空いてくる施設を待つことはできない。 なるべく早く建てたいということで、既存施設の活用方法については基本計画の中で記載させていただいているので、今現在計画の中では博物館については新設で考えている。

市民	私は展示物について、絶対これは実現してもらいたい、というのがある。昭和35年に発掘された安居山の別所第一号古墳に埋まっていた副葬品の、刀や鐔等は非常に珍しいものだと言われたそう。その古墳の中に高貴な人が埋まっていると言われているが、それらは今、東京国立博物館に行っている。皆さんがそれほど富士宮市の歴史文化に熱心になるならば、もし博物館が出来たなら、必ず富士宮に持ってきてもらいたいし、それを努力することを約束してもらいたい。 また、北山村にあった甕二つから出てきた中国製の古銭3万枚、これはやはり東京国立博物館から九州の国立博物館に2005年に移っているの、この古銭も持ってきてもらいたい。この2つは絶対をお願いしたいと思う。
文化課長	実際そういった手続きがどう進んでいくのか、今この時点では分からないが、確かに今回富士宮の歴史通史編を出すにあたり、別所古墳で出てきたものを逆にこちらが国立博物館をお願いして見せてもらっているの、何かしら方法を探って進めていけるように、お約束まではできないが、頑張っていきたいと思う。
市民	本当に東京と九州の国立博物館に掛け合うのか。できるかできないかはともかく、それだけは約束してもらいたい。
文化課長	そこのところは、確約はできない。今国立博物館で所有しているものなので、国立博物館がそういうものを譲るということをしているのか分からないが、博物館が富士宮市にあればお借りしてきて展示することは可能なので、まずはそこからやりたいと思っている。
市民	ちゃんと交渉してくれるなら良い。交渉してくれるかどうか教えてほしい。
文化課長	叶うかどうかは分からないが、交渉はしていきたいと思っている。それがどういう仕組みか分からないが、確認する。
市民	分かったら知らせてもらいたい。
文化課長	はい。
市民	私が前回課長にお聞きしたのは、曼荼羅絵図の話だが、重要で外には出せないものだから、富士宮では見られないとおっしゃっていた。私はその曼荼羅絵図を入れるための新しい博物館だと思っていた。しかし市長は議場で、そうではないと言った。 展示するのは偽の曼荼羅絵図で、私たちは本物を見ることはできない。もし本物を並べるとしたら、元々色々な条件があってお金がかかると話を伺った。偽物でいいなら、こんなにたくさんのお金をかけなくても、これからたくさん学校の廃校になるから、それをリフォームして使ってはどうか。どうして学校が良いかというと、博物館として全部の条件を叶えているから。 新築ではなくリフォームして、例えば木造の校舎というのは、素晴らしい美術的な空間が出来るはずだ。もっと安く市民が納得できる程度のお金で、教室をたくさん広げて大きな展示室を作ってはどうか。 もう一つ、博物館は、上下に1階2階3階という階層で展示するものではないと思う。私たちは一階を見ると、もうエレベーターで2階に上がって続きを見ようという気持ちにならない。だからできればフラットな所で多くを展示してもらいたい。そうすると、広い面積を持っているのは校舎。駐車場もたくさんある。そして子どもたちも元校舎なら建物に愛着もあるし、それが残るとなったら、卒業生たちもきっと喜んで手を挙げると思う。だからそんなに急がなくてもいいと思う。私たちがこのまちに來たのは22年前だが、その時は2、3回市議会で博物館をつくる話があり、全員が反対して、そういうものはつくらないと私たちは聞いていた。まさかそれが今できると思わなかった。 それだけ先人達がつくるのに値するようなものではないという判断をしたものということだから、今回博物館をつくるというのはどうなのか。 22年間の間に、郷土の宝というものを持っているのなら、どうして展示しなかったのか。自分たちの宝を子どもたちに残していきたいんですよという展示を私たちは22年間1度も見たことがないし、文化会館内に展示しているものもあるが、何も良いと思わなかった。今更急いでコンクリートの建物を建て、どんな展示をするか分からないが、狭い空間の中で展示なんて向いてないと思う。 今まだ小中学校の統合が決まらないと言っているが、それが決まったら必ず建物が空くのだから、それを待って、その中で1番良いものを選んではどうか。 私が一番いいなと思ったのは、富岳館高校。あそこは素晴らしい敷地がいっぱいある。

教育部長	富岳館については県立高校なので県の教育委員会との協議が必要になる。 小中学校については、確かに学校の再編が進んでいくと、何校か廃校になる学校が出てくるが、富士宮市の小中学校は古い学校が多く、空いたらすぐ文化財を入れるというわけにはいかず、説明の中にもあった温度管理など、かなり改修が必要になってくる。 そうした時に例えば20年しか持たない施設を改修してそこで20年間展示させるよりも、新築であれば、最初は70年というところを見越した中で考えたときに、将来の富士宮市にとってどちらがいいのかというと、やはり新築で建てさせていただいたほうが良い。改修の場合使い勝手が悪かったりする。 展示はせず、保管だけが必要なもの、そして、温度管理などが必要でないものなら、今おっしゃられた廃校したところに収納できると思うが。
市民	新しい建物に格納しても、結局それが入りきらず、ぐちゃぐちゃになってどこかに預けてあるなどの問題が起こることが確実だから、別の場所を用意してはいけない。全部一つにまとめてはどうか。新築だとしても30年後には修繕しないとイケない。校舎の方が絶対いい。 駐車場がないというのは本当にだめ。だから絶対に学校施設。お金のことだけではなくて全体の条件を色々考えて。
文化課長	学校施設を博物館にというお話で、博物館に必要なものがすべてあるという話だった。しかし、学校は光がとても入る造りで、学校を博物館にするためには、光が収蔵物によくないので、それをすべて防ぐような改修をしなければいけない。 また今回計画の中にも、建物のところで文化財 I P Mという言葉があるが、文化財を虫などから守る方法として、消毒をする方法が一つある。あまり体によくない方法で、そういうものも段々使えなくなっている。どうやって虫を防ぐのかといったときに、建物を虫などがなるべく入らないような造りでつくる方法があるが、新築だとそれがやりやすい。 重要文化財を展示するには色々な設備が必要で金額がかかるというお話だが、今国として推奨している博物館、文化財 I P Mというものもしっかり対応可能な建物、そして、温湿度も電気で温湿度管理するだけではなくて、建物自体でそういったものをなるべく防いでいくような仕組みというものも、新築のほうがやりやすくなる。 そういった中で、しっかり国の基準などにも合わせてつくっていかうとしたものが、今の基本計画で予定している建物。その基準で建てていくことによって、そういった国の重要文化財なども展示し、扱うことができる建物になってくるので、重要文化財を扱うためにお金をかけるというのではなく、文化財全体をしっかり守っていくために、そういった設備にすることにより、重要文化財も展示ができるということになる。 重要文化財というのは1年間の間に展示できる期間が決まっているので、重要文化財だけではないが、文化財を皆さんに見ていただきたくて展示したいが、展示を長くすることイコール光等が当たるので、文化財を傷めてしまうことになる。だから展示の期間は、そういう環境が必要なものほど展示の期間を短くしなければならなくなる。そうすると、実際に見ていただきたいというふうになった時に、いつ来てもない、いつ見れるのかということになる。 見ていただきたいものについては、レプリカを作るということは博物館では通常のこと。皆さんに見ていただきたいのはレプリカで作って見ていただくか、年間で一定の期間だけ本物を皆さんに見ていただくということになる。 市長がレプリカでという話をしたと思うが、皆さんに曼荼羅を見ていただくためには、レプリカで通常は見ていただくが、年間で1回も難しいかもしれないが、周年事業ではしっかりお金をあてて、市民の皆様にも本物を見ていただくような機会を作っていく。そういうことが、しっかり設備が整った建物であるとできる。学校だとそこまでのことをするのが難しいと思うし、学校は教室が分かれているので、なかなか皆さんに見ていただく導線が難しいかなと思う。実際に学校を博物館に使っているところもないわけではないが、色々工夫していると思う。 博物館でしっかり守って展示していくというのが必要だと思う。

市民	以前の説明会の時に、副市長が、ほかのまちには博物館があり、富士宮市だけがない、だから欲しいという趣旨の発言をなさっていた。 しかし、もしその時につくっていたら今富士宮市はその博物館のために負担が多く、どうやってこの博物館を処理していこうかという状況に陥っていたと思う。日本中みんなそう。ハコモノブームで色々なものを建てたために、静岡県も、今知事がどんどんコストカットして、何を残して何を捨てるか、そういうことを一生懸命やっている。
文化課長	色々皆さん価値観がある中での考えだと思うので、郷土の歴史文化を守ることが必要ないと言われてしまうと、その人の価値観なんだと思うが、行政としてはそういったものをしっかりと守り伝えていくことが必要。それをやりたくてもしっかりしたものがつくれないで現在に至ってしまっているのが富士宮。他の市町でやはり何年か経ってリニューアルするというような博物館も全国で出てきている。リニューアルするにあたっては、やはり博物館法も改正された中で今までのような単に珍しいものを展示して見るだけではなく、市民もそこに参加して活動する場所として、拠り所となっていくような施設を全国でリニューアルする際は進めているので、富士宮はこれから建てるということで、そういったものをしっかり取り入れた博物館にしていく予定となっている。
市民	ユネスコの指令を富士宮は無視するということか。博物館をデジタルアーカイブをそろえなさいというのがユネスコの指示。世界遺産は一度されれば永久のものではない。抹消するということもありえる。私はドレスデンという町に行ったことがあるが、世界遺産の町で指定されたが、景観に合わないひとつの橋をつくった代わりに世界遺産から抹消された。 また、先日中国人の方が滑落して遭難救助した。あの二人が富士山頂で何をしたか知っているか。中国国旗を振りかざした。それがYoutube動画に放映されている。要は富士山が政治色に染まっている。その中国人が帰りに滑落して、富士宮の消防隊員が救助した。これが現実。最悪の場合は富士山が、構成資産のひとつである浅間大社をデジタルアーカイブ化していなかったこと、富士山が政治色に染まっている、オーバーツーリズム等で世界遺産登録抹消というようなこともあり得る。富士吉田市等、周辺の土地は先ほど言ったように博物館法に基づいてデジタルアーカイブにしている。ジャパンサーチというプラットフォームにも登録している。していないのは富士宮だけ。
文化課長	富士山の世界遺産登録が外されるかもしれないという話だが、そちらは博物館とはまた違ったことになるので、発言は控えさせていただく。 デジタルアーカイブ化していないのは富士宮だけだということだが、今資料が手元にないが、デジタルアーカイブ化が進んでいる博物館について文化庁が調査したところ、50%に満たなかったと思う。これから文化庁もデジタルアーカイブを進めていくようにやっているところなので、富士宮もそのようなことは計画しているので、しっかり取り組んでいきたいと思う。
市民	いつまでにやるのか。
文化課長	できれば博物館が開館する時にはそういったものが公開できるような形になれば理想かなと思っている。こういったものはできるだけ少しずつ進めていきたいと考えている。
市民	それは登録博物館ではない形で作るのか。
文化課長	先ほど言ったように、デジタルアーカイブの公開というのが、色々段階的にあるので、公開ができるような仕組みを、博物館とは別に作っていかなくてはいけないと思っている。
市民	文化庁が、令和10年度末に間に合わなかったらそれは登録されないと言っている。
文化課長	10年という期限があるのであれば、交付金、補助金というものは使えないかもしれないが、デジタルアーカイブ化はできる範囲でしっかりやっていきたいと思っている。デジタルアーカイブ化は、デジタルミュージアムや映像をある程度の技術を使って見やすく公開するとなるとそれなりの費用がかかってくるが、全てがすごく費用がかかるというわけではないので、できるだけ少ない金額で少しずつ準備を進めていく予定。

市民	これから議員の反対が多数になったらこの建設は中止するのか。
文化課長	今回基本計画は作ったが、次の基本設計は予算を認めていただかないと次に進めないの、そこで議員の判断がある。計画がなくなるかどうかは、市とすると必要だと思っているので、一回駄目だったから諦めるかという、そこはその後もずっと建てることを目標としていきたいと思っている。基本計画を作った後、今年度の補正予算に次の段階の基本設計の予算をあげたいと思っている。
市民	その予算の時点で議員が反対多数だった場合はどうなるのか。
文化課長	次の段階に進めないことになる。
市民	もうきららに決定したのか。
文化課長	きららということは市として決定させていただいた。
市民	いつ決定したのか。
文化課長	決定したのは4月27日。政策会議で決定して、5月11日に市長から記者会見で発表させていただいた。
市民	それは議会軽視ではないか。
市民	全然知らない。
文化課長	策定委員等の意見を聞いた中で検討し、市の中で決定していった。今まで説明させていただいたとおり。
市民	議会で決まる前に、市長が記者会見で言ってしまったということか。先に議会で承認多数で可決されてから、記者会見で決定しましたと発表するのではないのか。
文化課長	申し訳ないが、市の方で色々な施設等を建ててくる中で、場所の決定に議決を得るといった仕組みはないので、議会で予算をいただき、市の方で検討して進んでいく形になる。予算を議会で判断していくという流れになる。
市民	前回はまだ決まっていなかったとおっしゃってなかったか。
文化課長	昨年の6、7月の時点では決まっていなかった。その時に基本計画の策定委員会が始まったばかりだった。最終的には意見を聞きながら市が決定するという形で今回決まったもの。
市民	それは市議会にあげて、市議会全員が賛成したということか。
文化課長	先ほども申し上げたが、そういった形で市が行う事業が決まっていくという仕組みではない。だが、先日、議員の方に建設場所や計画について説明させていただいた。議員の方が計画も含めて次の段階に進んでも良いかどうか、基本設計の予算を判断していただける。
市民	市長が突然記者会見で、きららの裏に決まりましたと言ったからこんなに問題になったんだ。
教育部長	いきなり市長がそういう発言をして決めたというわけではなく、昨年度から策定委員会を設けて、郊外型か都市型かということで検討し、策定委員会の方から都市型の場所がいいという意見をいただいた。市が場所を決定するにあたって、市議会に対して意見を聞くというのは特に無いので、市がこの場所が最適だということで決めさせてもらい、それを5月の定例記者会見で発表させていただいた。市長が突然発表したわけではなく、色々な検討を重ねてきた結果、最適だということで市で決定させていただいたので、ご理解いただければと思う。
市民	これは博物館法に明らかに違反している行為だから文化庁に問い合わせしてもいいか。
文化課長	分かった。
市民	問い合わせする。
市民	市のホームページには策定委員会の議事録や、建設場所に関して説明会をしたというお知らせも、ホームページ上に掲載されているが、それが新着情報に上がってこなかったの、傍目から見た時に、しばらく動きがなかったように見えてしまった。

市民	トップページの、よく見られている情報や重要なお知らせ等の欄にもなく、富士宮市のＨＰの中で、博物館で検索すると出てくる郷土史博物館の基本計画に関するページの中で見られる状態なので、そのアクセスのしにくさによって、ＨＰ上で、すでにそういった検討をさせていただいて場所の説明会もされているという報告が上がっていても、その流れを掴みにくかったことで、こっそり動いているように見えてしまったのかなと思う。先ほども述べたが、トップページを開いただけで情報にすぐアクセスできる環境づくりを改めてお願いします。
教育部長	ありがとうございます。早速ですがＨＰは修正したいと思う。
市民	こういう会議はＺＯＯＭで開催してもらえないのか。私は身体障がい者なので、これからやる説明会はＺＯＯＭ配信してもらえると非常に助かる。スマホ１台あれば簡単にＺＯＯＭ配信できる。
市民	３週間で１２回も説明会と称してやること自体が信じられない。
教育部長	パブリックコメントを１か月かけてやっているの、そのパブリックコメントに繋がるようにやっている。終わってから説明会をやっても意見を言える機会が無くなってしまう。
市民	パブコメをやっても誰も採用してくれない。何回も提出したが何の意味もなかった。悪く言うとただのパフォーマンス。
市民	子どもたちに文化財を伝えることは大事だがどうしたらいいのか、お金はどうするのか、博物館をつくるにはどうしたらいいのか、その解決策がデジタルアーカイブ。すべてデジタルアーカイブにすれば、スマホ１台あれば見れる時代。皆さんの家庭で、百科事典を買うお宅はあるか。みんなグーグルで調べる。時代は変わっている。
文化課長	ありがとうございます。本当にデジタルに関しては色々知識をお持ちなので、今いただいた意見をこちらでも確認させていただきたいと思う。 またＺＯＯＭ配信は、説明会の会場が市役所ではない施設になるので、状況等確認しながらやっていく。 今後の説明会に生かしたいと思うので、アンケートのご協力をお願いします。ご意見はパブリックコメントでお願いします。